

です。つまり「内なる人」が健康体となることです。私たちには、不安や思い煩いから来る心配事は多々あります。

- ・イエス・キリストは、このように言われました：**マタイの福音書 11 章**
11:29 わたしは心が柔和でへりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすれば、たましいに安らぎを得ます。
- ・イエスは、「わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎを得ます。」と言われました。それは私たちの「内なる人」が成長するということなのです。今日は「内なる人」について、次の2点を考えてみましょう。

大切なポイント

1. 人としての成長

- ・まず、人間としての成長を考えてみましょう。私たちは皆、なによりも成長することを期待します。もし人間として成長するならば、私たちがかかえる問題に解決が見えるからです。成長の逆は、未熟です。じつはその未熟さから、さまざまな問題が生まれて来るのではないのでしょうか。
- ・一般的に言って、人間が成長すると、次の3点が挙げられます。

1) 相手の心が見える

- ・あるセールスマンから、次のようなお話を聞きました。
セールスマンの彼は、お客に一生懸命に商品の説明をしました。お客はただ黙って聞いているだけでした。しかしその表情を見ても、商品の興味があるのか無いのか分かりませんでした。
- ・ところが、セールスマンとして修練を積んでいきますと、彼は何気ない表情の変化、目の配り、仕草からでも、お客の心の動きを感じ取れるようになったと言いました。
- ・そして更にセールスマンとして修行を積むと「無限の声」が聞こえるようになってくると言いました。それが「相手の心が見える」ようになるということです。それはセールスマンの成長でもあります。
- ・皆さん。相手の心が見えるようになることは、人として成長を意味します。私たちは人の心が見えるならば、どんなに人間関係が円滑に進むことでしょうか。それはビジネスの世界だけではなく、どの分野においても、相手の心が見えるように成長したいものです。

2) 集団の心が見える

- ・次に人間は成長すると、「**集団の心**」が見えると言われます。

それはどういうことかと言いますと、「場の空気」のことです。会社で「マネージャーは職場を徘徊することによって、マネジメントする。」と言われます。

- そのようなマネージャーは、職場のあちこちを回り、いろいろなスタッフと雑談をしながらも、実はマネジメントしているのです。職場の雰囲気（空気）はどうか、いつもと違っているか、その原因は何であろうかと考えます。皮膚で感じながら、職場を徘徊するのです。そして感じとったものをマネジメントに生かしていきます。職場にはこのような達人が求められます。集団の心を読むとは、このようなことですね。

3) 自分の心が見える

- もうひとつ、人間が成長すると、自分の心が見えると言います。じつは見えているようで、最も見えていないのは「自分の心」であります。自分の心を見るのが難しいのは、「無意識の心」の領域であるからです。
- 自分の考えは正しい、間違っていないと、無意識の内に思っています。ですから、そのような人は頑固になります。心理学者は、そういう人の多くは「自己満足な心」を持っていると言います。
- そうすると、自分の内側がますます見えなくなってしまうものです。では、どうすれば見えるのでしょうか。
⇒ 見えるように光を当てることです。
聖書はこう語っています。 詩篇 119 篇
119:105 **あなたのみことばは私の足のともしび私の道の光です。**
- 光が照らされるならば、見えなかった暗い部分が見えてきます。それはまるで鏡のように映し出され、自分が見えるようになります。

- 人間の成長とは、少なくともこのように 3 点が見えるようになることです。私たちは人として；
① 「相手の心が見える」でしょうか。
② 「集団の心が見える」でしょうか。
③ 「自分の心が見える」でしょうか。
- 正直言って、あまり見えていないものではないでしょうか。これらは内なる人の成長と比例するものです。しかし、ここに Good News があります。それはイエス・キリストのことばです。

8:12 **イエスは再び人々に語られた。「わたしは世の光です。わたしに従う者は、決して闇の中を歩むことがなく、いのちの光を持ちます。」**

ヨハネ

- ・たとえ私たちは今、見るべきものが見えなくても、闇を照らす光が注がれるならば、光の中を歩むことができます。
- ・それでは、イエス・キリストはどのようなお方でしょうか。
ご一緒に考えてみましょう。

2. 少年イエスの成長

1) 少年イエスの成長

- ・少年時代のイエス・キリストについて記されている箇所は、聖書には多くありません。次の個所をお読みしましょう。 ルカの福音書 2 章
 - 2:41 さて、イエスの両親は、過越の祭りに毎年エルサレムに行っていた。
 - 2:42 イエスが十二歳になられたときも、両親は祭りの慣習にしたがって都へ上った。
 - 2:43 そして祭りの期間を過ごしてから帰路についたが、少年イエスはエルサレムにとどまっておられた。両親はそれに気づかずに、
 - 2:44 イエスが一行の中にいるものと思って、一日の道のりを進んだ。後になって親族や知人の中を捜し回ったが、
 - 2:45 見つからなかったので、イエスを捜しながらエルサレムまで引き返した。
 - 2:46 そして三日後になって、イエスが宮で教師たちの真ん中に座って、話を聞いたり質問したりしておられるのを見つけた。
 - 2:47 聞いていた人たちはみな、イエスの知恵と答えに驚いていた。
 - 2:48 両親は彼を見て驚き、母は言った。「どうしてこんなことをしたのですか。見なさい。お父さんも私も、心配してあなたを捜していたのです。」
 - 2:49 すると、イエスは両親に言われた。「どうしてわたしを捜されたのですか。わたしが自分の父の家にいるのは当然であることを、ご存じなかったのですか。」
 - 2:50 しかし両親には、イエスの語られたことばが理解できなかった。
 - 2:51 それからイエスは一緒に下って行き、ナザレに帰って両親に仕えられた。母はこれらのことをみな、心に留めておいた。
 - 2:52 イエスは神と人とにいつくしまれ、知恵が増し加わり、背たけも伸びていった。
- ・注目していただきたいのは、52 節です。
 - 2:52 イエスは神と人とにいつくしまれ、知恵が増し加わり、背たけも伸びていった。

2) 3つの成長の特徴

- ここで大切な3つの成長を見ることができます。
 - ① 知恵が増し加わる：ユダヤ人として聖書知識を得て、神の知恵が進んだ
 - ② 背丈も伸びた：身体健康も守られ成長した
 - ③ 神と人々に愛された：これはイエスと神との関係
- この3点はイエスの成長の特徴であります。
 - ① は「内なる人」の成長です。
 - ② は外なる人の成長です
 - ③ は成長プロセスにある姿です。
- 私たちはここにバランスの取れた成長を見ることができます。それは人の本当の意味での成長であります。

3. 私たちの成長

- では、私たちが成長するには、いったいどうすれば良いのでしょうか。苦労や苦難は、十分ある人生で、私たちはどうすれば成長することができるのでしょうか。
 - ① 人は学びによって成長する
- 私たちは人生において苦労や困難に直面します。その時、私たちはどのように応答するのでしょうか？

{例 話}

 - 皆さんは、プロ野球大リーグで活躍したイチロウ選手をご存じでしょう。イチロウ選手には数多くのエピソードが残っています。一例を挙げましょう。大リーグで活躍中のあるシーズンのことでした。あるピッチャーに何試合も抑え込まれていました。試合後、彼はインタビューを受けました。
 - 「彼は苦手のピッチャーですか？」イチロウ選手は答えました。「いいえ、そうではありません。彼は私というバッターの可能性を引き出してくれる素晴らしいピッチャーです。だから、自分も修練して。彼の可能性を引き出せるバッターになりたいですね。」
 - イチロウ選手は、苦手な相手とは言わず、自分の可能性を引き出してくれる相手であると、言いました。
 - 聖書の中にも、次のようなことばがあります。 **詩篇 119**

119:71 苦しみにあつたことは私にとって幸せでした。それにより私はあなたのおきてを学びました。詩篇
- 人生、だれでも苦労や困難は避けたいと願います。しかし、苦労や困難は逆に自分の可能性を引き出してくれるチャンスです。ですから、苦労や困

難は、自分を成長させてくれるものです。人は苦勞や困難に出会い、本当の意味で成長するものです。ですから苦勞や困難から逃避する必要はありません。

- ・聖書はさらに幸いな励ましを与えてくれています。それは自分の力でだけで、苦勞や困難を切り抜ける必要は全く不要であるということです。イエスは言われました。

11:29 わたしは心が柔和でへりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすれば、たましいに安らぎを得ます。 マタイ

② イエスに学ぶことによって成長する

- ・イエスは言われました。

11:29 わたしは心が柔和でへりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすれば、たましいに安らぎを得ます。 マタイ

③ 成長の秘訣はどこに？ ⇒ 「イエス・キリスト」

(1) イエスは罪を知らないお方である

5:21 神は、罪を知らない方を私たちのために罪とされました。それは、私たちがこの方において神の義となるためです。 II コリント

- ・イエスは罪を知らないお方です。それは、どういう意味でしょうか？ 罪を知らないお方、罪がないお方、それは神お一人です。そうです。イエスは神であるお方です。神が人の姿をとり、この地に来てくださいました。

- ・イエスは言われました。

14:9 イエスは彼に言われた。「ピリポ、こんなに長い間、あなたがたと一緒にいるのに、わたしを知らないのですか。わたしを見た人は、父を見たのです。どうしてあなたは、『私たちに父を見せてください』と言うのですか。

- ・イエスは神が人の姿を取られたお方です。ですから、イエスから学ぶことができるのです。

(2) イエスは苦難を経験されたお方

4:15 私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯しませんでした。すべての点において、私たちと同じように試みにあわれたのです。 ヘブル

- ・イエスは試みにあわれ、苦難にあわれました。そればかりか、十字架の苦しみにあわれました。ですから、私たちを本当に理解し助け救うことができるお方です。

(3) イエスは約束されたお方

11:29 わたしは心が柔和でへりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすれば、たましいに安らぎを得ます。マタイ

- ・わたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。
くびきを負うとは、同じように歩むことを指しています。イエスのくびきを負う歩み、それが私たちを成長させてくださいます。
- ・そうすれば、たましいに安らぎを得ます。
条件はイエスのくびきを負うことです。それが「そうすれば」という意味です。これはイエス・キリストの約束です。

ま と め

主 題：「心ある人は成長する人です」

ーイエスのくびきー

- ・今朝、神は私たちにお語りくださいました。それは神の祝福を受けて、内なる人が成長することです。内なる人が祝福を受け、成長する秘訣はどこにあるでしょうか。 聖書は次のように約束しています。

11:29 わたしは心が柔和でへりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすれば、たましいに安らぎを得ます。マタイ

*God bless you!